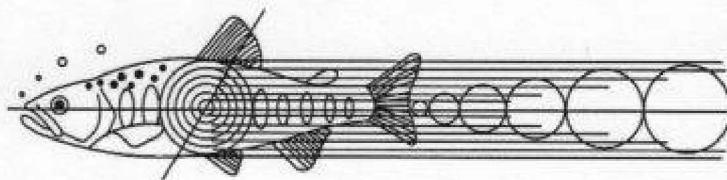


news

長良川市民学習会ニュース



徳山ダム導水路はいらぬ！

No.18

2014年8月14日

表紙 (長良川・郡上市にて 2014.7.15 武蔵) … P.1	(マップ) 長良川を考えると き …………… P.7
情勢と長良川市民学習会の活動 …………… P.2	2014年度「長良川河口域環境観察会」報告 …P.8~9
長良川・伊勢湾・COP12 アクション …………… P.3	長良川上流の山・川・暮らしの視察と交流 P.10~15
導水路裁判 名古屋地裁住民請求を棄却！ P.4~6	校歌に歌われた長良川・読者からの手紙 …………… P.16

長良川を放射能で汚してはならない！私たちは、原発の再稼働に反対します。

情勢と長良川市民学習会の活動報告

長良川市民学習会 事務局長 武藤仁

7月24日名古屋地方裁判所は、愛知県知事らを相手に徳山ダム導水路事業公金支出差止めを求める住民の訴えを棄却する不当判決を下しました（p4～6参照）。同事業は2009年10月民主党前原国交大臣の「凍結」表明の後、検証ダム事業のひとつとなり2011年6月に開催された第1回「木曾川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場」（以下「検討の場」）以来目立った動きは見えませんでした。しかし不当判決を受け動き出す危険があります（突然の第2回「検討の場」開催→事業継続承認→国の有識者会議ゴーサイン→凍結解除）。

全国のダム建設事業をめぐるたたかい

三重県伊賀市に計画された川上ダム建設事業は、利水者としての西宮市や奈良県諸都市の撤退、さらに地元市民のたたかいがあり、2012年に当選した新市長は、いったんは事業見直しの姿勢を見せました。しかし激しい巻き返しに遭うと自ら積極推進派に転向。今年5月23日に第1回「検討の場」が開催されるや即事業継続承認。8月6日開催の国交省「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」が霞ヶ浦導水路事業などとともに事業継続にゴーサインを出すという猛スピードの展開です。異常というしかありません。

また、長崎県石木ダムのたたかいは、前号掲載「小さなダムの大きな闘い」や当会ホームページでも紹介しているとおりです。本稿執筆現在(8/11)、長崎県は建設に反対し付替え道路工事現場のゲート前で座り込んでいる住民に対し「通行妨害の仮処分申請」を行いました。まさに権力を持つ側が弱者を恫喝するために行う「スラップ」訴訟です。原発に屈しない祝島島民に対して中国電力が使った卑劣なやり口の攻撃が始まりました。

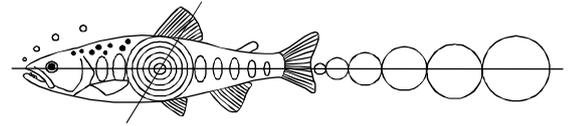
山形県最上小国ダム建設でも抵抗する地元民に非情な攻撃が続いています。漁協は2006年11月、総代会で「穴あきダムによらない治水を求める決議」を採択して以降、ダム建設には一貫して反対の姿勢を明確にしてきました。これに対し山形県は今年に入って筋が通らない漁業権更新「不許可」を提示。組合長を自殺に追い詰め、さらに6月8日総代会の建設容認の「決定」にまで追い詰めています。

もう黙っとれん！

こうした強権的な動きの背景には「特定秘密保護法の強行採決」「集団的自衛権の行使容認閣議決定」「原発再稼働」など国民の反対を押し切って暴走する安倍政権の政治があります。全国でこの流れを変えようという運動が広がっています。岐阜でも従来一緒に運動したことがない市民団体・個人が垣根を越えて行動を広げています。6月21日の平和・自由・いのちを守る「もう黙っとれん1000人パレード」には長良川市民学習会の仲間も自主的に呼びかけ人、賛同人、カンパ協力者になって成功をみました。当日は燃えるような1000人の怒りと熱気の集会（金公園）となりました。長い列のパレードの中で長良川市民学習会の「よみがえれ長良川」の幟もはためきました。

たたかいは続きます。9月6日には「さよなら原発・ぎふパレード」が10月11日には「もう黙っとれん集会・パレード」があります。ぜひご参加ください。

さて、この秋の導水路事業中止！河口堰開門調査実現！の取り組みです。10月に韓国で生物多様性COP12が開催されます。愛知ターゲットにそって掲げた「導水路事業の見直し」「長良川河口堰の開門調査」の大村知事・河村名古屋市長の共同マニフェストはどこへ行ってしまったのか？伊勢湾流域の仲間と協力して次ページのような「長良川・伊勢湾・COP12アクション」を起こし運動を展開します。ご支援ください。



長良川・伊勢湾・COP12 2014 9/5~7 アクション

リニア新幹線、設楽ダム、内ヶ谷ダム、川上ダム・・・大型公共事業の暴走が続いています。徳山ダム導水路事業に名古屋地裁は不当判決を下しました。「長良川河口堰開門」の国民の声に国・事業者は耳を傾けようとしません。生物多様性 COP10 で約束した「愛知ターゲット」が開催地のこの地域で蹂躪され続けています。

COP10 開催時、中部の市民グループは、「生命流域の再生」をアピールしながら会議成功に寄与しました。その後、私たちは「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」を呼びかけながら、COP10 で出会った「韓国 4 大河川事業」の環境問題に取り組む韓国の市民団体と交流活動を続けてきました。本年 10 月、COP12 が韓国平昌^{ピョンチャン}で開催されます。

このアクションは COP12 の成功をめざすとともに COP10 から 4 年経とうとする今、大型公共事業が暴走する中で中部地域の現場をしっかりと見つめ、「愛知ターゲット」達成をめざすアクションです。

●アクション1 9/5・6 木曾三川エクスカージョン

* バス・船などを利用しますので参加人数に制限があります。詳細は 15 ページをご覧ください。

(パート I) 9 月 5 日 (金) 木曾三川下流の環境と利水：船で長良川河口堰など見学

(パート II) 9 月 6 日 (土) 徳山ダム導水路計画の検証：徳山ダム堤体内など見学

共催：伊勢・三河湾流域ネットワーク、長良川市民学習会、導水路はいらない！愛知の会

●アクション2 9/6 市民学習会「韓国 4 大河川事業と徳山ダム導水路」

* 9 月 6 日 (土) pm 6:00~8:30

* ハートフルスクエア G 大研修室 (JR 岐阜駅東詰) 資料代 500 円

基調講演「韓国 4 大河川事業とは」パク・チャングン 関東大学教授

報告「4 大河川事業と市民運動」イ・ハンジン ヨジュ環境運動連合執行委員

「徳山ダムから導水路事業の今」近藤ゆり子さん 徳山ダム建設中止を求める会

共催：長良川市民学習会、導水路はいらない！愛知の会

●アクション3 9/7 市民シンポジウム「生物多様性 COP10 から 4 年」

* 9 月 7 日 (日) pm 1:30~4:30

* 名古屋学院大学日比野学舎 301 号教室 (地下鉄「日比野駅」から 3 分) 資料代 500 円

講演 1 「愛知ターゲット 20 の約束」道家哲平 IUCN 日本委員会事務局

講演 2 「韓国 4 大河川事業と生物多様性」イ・ハンジン ヨジュ環境運動連合執行委員

シンポジウム

「愛知ターゲット達成を地域から考える」コーディネーター 高山進 三重大学教授

共催：「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」実行委員会

国連生物多様性の 10 年市民ネットワーク (UNDB 市民ネット)

名古屋学院平和学研究会

●アクション4 10/12~ COP12 韓国ツアー (企画中)

* 中部地域の仲間「中部 Bio Region Group」で 10/14 サイドイベント開催を申し込みました。

COP12 主催者の決定は 8 月 15 日です。サイドイベントの成否にかかわらず COP12 会場の見学 + α のツアーを考えています。参加者募集中！みんなで韓国 COP12 に行きましょう！

主催：UNDB 市民ネット・中部

8月6日原告団が名古屋高裁に控訴

7月24日名古屋地方裁判所において愛知県知事らに対し徳山ダム導水路公金支出差止めを求める住民訴訟の判決がありました。判決は、導水路事業について「政策的な判断が必要で、国の広い裁量に委ねられている」「水資源開発施設は完成までに相当期間を要する」との考えを示し、水需要予測と実績の乖離を認めつつも「予測は不確実性が伴うため、ある程度の誤差が生じることはやむを得ない」「需要が減少し予測との間に一定の差が出たからと言って、計画が著しく合理性に欠けるとはいえない」「国が過去のデータに基づいて適正に策定した計画にのっとって支出しており適法」と被告を庇い、住民の訴えを棄却しました。原告が示す事実を目を背け行政に跪く極めて情けない判決でした。



判決後の集会和記者会見で在間弁護団長は「需要の減少を前提とすべきなのに不都合な事実を横に置いた」と怒りを込めて主張。小林共同代表は

「導水路事業にお墨付けを与えるような司法判断で残念。控訴審で勝利する」と訴えました。濱嶋、小島両若手弁護士は「人口減と節水が進む中、使い古された判決文だ」と呆れかえっていました。原告団と弁護団は、司法の責務放棄を強く批判し徳山ダム事業廃止のため今後も粘り強く活動することを表明する声明文を発表し、8月6日名古屋高等裁判所に控訴しました。

この裁判は愛知県の公金支出差止めを求めるもので、「長良川に、徳山ダムの水は要るのか？」は論争になりませんでした。

導水路事業を進めようとする国・事業者にとってこの住民訴訟と並んで導水による長良川の環境悪化に反対する世論は大きな障害です。今後、事業者側が流す「導水路は東濃の渇水に役立つ」「水路の冷たい水は地球温暖化による長良川の水温上昇対策になる」などデマともいえる世論攻撃はね返す取り組みが重要になります。

2014/7/25・中日新聞・朝刊

5 社説 2014年(平成26年)7月25日(金曜日)

「導水路」判決

頭打ちの水需要に巨費を投じることは妥当か、との訴えを、裁判所は「国の適正な計画に基づいた支出で違法性はない」と退けた。でも、計画は今も妥当といえるのか。今度は政治が考える番だ。

どしどし、違法な支出には当たらないと結論付けた。

高度成長前後の一九五七年に計画され、岐阜県の揖斐川上流に二〇〇八年に完成した徳山ダムは、最後の巨大ダムともいわれ、その徳山ダムから木曽川への導水路事業をめぐる住民訴訟で、名古屋地裁が住民側の訴えを退ける判決を出した。

今度は政治が考える番

住民側は、木曽川流域の水需要は事業計画時の予想を下回っている、などとして導水路は不要だと主張。愛知県と県企業庁に分担金三百十八億円を支出しないよう求めた。

裁判所は、水の需要予測は「一般に不確実性を伴うため、想定値と実績値との間にある程度の誤差が生じることはやむを得ない」な

その一方で、人口減少の時代に向かう中、巨費に見合う水需要はあるのか、という批判も次第に強まっていた。

名古屋市の河村たかし市長は〇九年五月、「水の需要は減っていない。導水路は要らない」と事業からの撤退を表明。同年十月には、当時の民主党政権が導水路を含む各地のダム事業を凍結。愛知県の大村秀章知事も、一年の知事選で事業見直しを掲げていた。

凍結された導水路事業の検証作業は停滞し、宙に浮いた状態のまま今回の判決を迎えた。違法な支出とはいえない、という判断が、事業再開のグリーンサインというわけではないだろう。

渇水や洪水への備えは万全でありたい。だが、想定ほどの水需要が見込めない時代を迎え、導水路事業への巨費投入が妥当だといえるのか。将来を見据え、政治が判断しなければならぬ。



木曾川水系連絡導水路事業 愛知県費用負担金支出差止住民訴訟請求棄却の不当判決

同住民訴訟弁護団 在 間 正 史

7月24日、名古屋地方裁判所（福井章代裁判長）で標記判決がありました。事業目的に沿って、判決がいかに不当であるかをコメントいたします。



1 導水路事業の事業実施計画が定める事業目的

① 新規利水の供給

徳山ダムに確保される愛知県の水道用水最大 2.3 m³/s（供給地域は愛知用水地域）、名古屋市の水道用水最大 1 m³/s 及び名古屋市の工業用水最大 0.7 m³/s を導水し、木曾川において取水を可能ならしめる。

② 流水正常機能の維持

木曾川水系の異常渇水時において、徳山ダムに確保される流水正常機能の維持（異常渇水時の緊急水の補給）を図るための容量 5300 万 m³のうちの 4000 万 m³を一部は長良川を經由して木曾川に導水し、木曾成戸地点において河川環境の改善のための流量を確保する。

※この水は、岐阜県が説明している利水のための補給水ではないのです。

2 新規利水の供給について

(1) 判決

2000年から2010年までの水道用水の実績値が、このままの傾向で推移すれば、2015年において、2015年需要想定値とは相当程度乖離した数値となることも予想される。しかし、一般に、将来の需要予測については不確実性を伴うため、想定値と実績値との間にある程度の誤差が生じることはやむを得ないところであるうえ、水資源開発施設はその整備に長い時間を要し、水需要が急増したとしても、その時点では整備が間に合わず、需要増に対応した供給ができないという状況に陥るから、長期的な視野に立って見通しを立てる必要がある。

(2) コメント

需要想定が需要実績と乖離しており、需要想定値が実績傾向と乖離することは認めました。判決も、需要想定値が実績で基礎づけられないことは認めざるをえないのです。

「誤差」は増加のとき、増加の程度ではあり得ても、実績の推移は2000年から横ばい・減少で増加しておらず、増加予測が間違っていたのであって、「誤差」の問題ではありません。

今後は水需要が減少するので、これを前提としなければならないという『新水道ビジョン』を明記して主張したのですが、判決はこれを記載せず、つまり不都合な事実を隠して、「長期的視野に立って需要増に対応する」という過去の決まり文句を必要性の根拠にしているのです。

3 流水の正常な機能の維持について

(1) 判決

河川整備基本方針および河川整備計画において定められた河川維持流量は、木曾三川協議会における協議の結果、昭和40年に木曾川の基準流量が成戸地点 50 m³/s と設定され、その後、約30年のもの長きにわたり、木曾川大堰の操作によって成戸地点の維持流量（日平均約 50 m³/s）が確保され、河口から木曾川大堰までの区間の汽水環境が形成されてきた歴史的経緯を踏まえ、木曾川における動植物の保護、漁業・舟運や景観（観光）への影響等といった河川環境の保全の観点から、異常渇水時にも木曾川下流の河川流量が著しく低下する

(マップ) 長良川を考えると 木曾三川と伊勢湾を見ておきたい



導水路に関して取材を受けたときのこと。ある若い新聞記者から「徳山ダム？どこにあるんですか？」との質問。「ああ・・・そこから説明しなければならぬのか」という経験をよくします。

「河口堰問題？それ何んですか」そうですね。河口堰運用の年に生まれた子どもは来年二十歳になるんです。彼らにはとっては生まれたときから河口堰が長良川にあったんだ。

長良川のこれからのを考えると必要だと思われる地名などを、主観的ですが地図に落としてみました。原発による放射能汚染を考えざるを得ない時代になってしまったことが残念でなりません。(武藤)

2014年度「長良川河口域環境観察会」報告

今年の最高気温が各地で観測された好天の5月25日、午前には2隻の船に乗って、午後は長良川、揖斐川、木曾川に沿って岸辺から川の様子を観察しました。河口堰周辺の観察会は2010年度から5回目、ヨシ原観察会は3回目になります。講師は粕谷志郎当会代表と元長良川下流域生物相調査団の千藤克彦さん。参加者は小さな子どもさん連れの家族を含め20名でした。

河口堰周辺 河口から同じ距離の4キロ地点の揖斐川と長良川、河口堰のすぐ上流6キロ地点の3ヶ所で川底の泥を採取

して観察しました。揖斐川(水深2.3m)は川の流が早く、底質はさらさらした砂地で小さなシジミが7個、酸化還元電位+126mvでした。長良川(水深3.0m)は流がかなり遅く、底質は黒いヌルヌルしたヘドロ状で、貝1個。酸化還元電位-226mvで違いは歴然でした(酸化還元電位がマイナスということは酸欠状態で死の世界です。名古屋の堀川・新堀川のヘドロ状態のところも-200mvぐらいの値を示します)。ゲートをくぐり堰のすぐ上流、6キロ地点(水深4.9m)はヘドロっぽい砂、貝無し、酸化還元電位-94mvでした。水質を改善するために堰のゲートのフラッシュ操作回数は以前の3倍(24年度は141回)に増やしたと報告されていますが、長良川の水質は良くなっているようには見えませんでした。昨年(2013年)の5月11日の観察会のときは、堰下流は一面黄色をおびた白い泡でおおわれ、緑色がかかった藻のようなものが混じり、辺りの空気は生臭く感じられました。今年は昨年ほどではありませんでしたが、あちこちで黄色がかかった泡がみられました。船頭さんの話では、夏場や水量の少ない冬場にも昨年のような光景はよく見られるとのことでした。

ヨシ原 船から河口堰の上流の長良川と揖斐川のヨシ原を観察しました。長良川の堰上流のかつて最大のヨシ原は9割以上失われたと言われています。昨年より一層少なくなったように思われました。国土交通省・水資源機構によって植栽されたヨシもほとんど今ではなくなっています。河口堰の下流から赤須賀漁港のあるあたりまで、長良川と揖斐川の間に、かつては大きなヨシ山がありました。地元の人達には「十万山」と呼ばれていたそうです。そのヨシ山が年々小さくなっています。堰の影響で水の流が変わり、どんどんえぐられているとのこと。かつて長島町の大島漁協の漁師だったという船頭さんの話では、この辺りでは昭和40年代50年代にはハゼ、ボラ、セイゴなどがたくさんとれたとのこと。当時は堰周辺には魚の絶好の生殖繁殖の場であるたくさんのヨシ山があったそうですが、それらは浚渫や地盤沈下ですっかりなくなってしまい漁協も解散。捨てられずに保管していた白魚をとった網などを保存してもらいたいと鳥羽の「海の博物館」にお願いしているところだといひます。

カニ採取 午後は、川中堤防をはさんだ河口から約9.5キロの同じ地点の揖斐川と長良川で、それぞれ5分間、参加者全員でカニを採集しました。

揖斐川はヨシ原が広がり足下は柔らかい湿地で、数ミリの採りにくい位の小さいモノから4~5センチの大きなモノまで次々とカニが見つかりました。大小54匹のクロベンケイガニ、ベンケイガニ(赤い)を採集。長良川は堤防道路から水辺近くまで草地になっており、植生もヨシに似たオギやノイバラ、上流部でも見られるオニグルミなどが増えています。水際に僅かに残ったヨシの根元でかなり大きな4~5センチのカニを15匹採集することができました。千藤先生の解説では、長良川の大きなカニは揖斐川から移動したものでは



2014.5/26
岐阜新聞

ないかとのこと。カニは6月頃水辺で産卵し、その幼生が引き潮に乗って海域に達し、そこで成長し、上げ潮によって河川感潮域に着底するため、潮の流れが堰で遮断されている長良川では生育できません。家族で参加された6歳の子どもさんが目を輝かせて5匹のカニを家へ持ち帰りました。

浚渫工事 千本松原の下流右岸では大規模な浚渫工事が行われていました。この辺りもかつては広大なヨシ原でした。この工事は平成25年度からからはじまり、25年度は約2万m³浚渫、費用は約2億1千万円とのこと（岐阜県長良川河口堰調査検討会の資料による）。今後どのような計画で継続されるのでしょうか？

木曾川右岸・木曾三川公園(河口から約14km)のワンド 千本松原のすぐ東、木曾川右岸の川辺で観察。ここはかなり大きなワンド(湾処)になったところで、長良川では今では見られなくなったサンカクイ、マコモなどの多様な植物が見られました。木曾川には上流にたくさんのダム群があるにも関わらず、長良川と比べるとこの辺りでは自然な美しい水辺の風景が広がりほっとしました。いい天気の日のためか河原はバーベキューやボール遊びを楽しむ若者達や家族連れで一杯でした。

(報告 田中 万寿)

観察会に参加して 棚瀬史恵

こんにちは。先日の河口堰見学会ではお世話になりました。

何でもそうですが、本で読むだけではわからないことがたくさんありますね。実際に泥の状態を比べたことで悪影響を実感しましたし、河口堰を通過することで感じた巨大な施設のばかばかしさは、うすら寒いほどでした。

持ち帰った5匹のカニは、翌日みんな逃げてしまい、子供は号泣しました。また捕りに行こうと話しています。田中さんが、見学会の感想を、とのことでしたので、中日新聞に投稿した文章(省略:右参照)をお送りします。手直しの後、6月4日の「発言」欄に掲載予定だそうです。

野田知佑さんや天野礼子さんの本を読んで、住民の反対運動があるにも関わらず、長良川等の自然環境が壊されていくことに、憤りを感じていました。ですが…河口堰があれだけ問題になって、頭脳も熱意も人脈もあるたくさんの人々が反対したのに結局造られてしまった、という事実、私たちにできることは結局何もないと思ってきました。実際にがんばっておられる方にそんなことを言うのは失礼でしょうが…今でもその思いが拭えません。

でもやっぱり何かしたい、という気持ちがあって、長良川市民学習会の活動に少しずつ参加してきました。何をすればいいのかよくわからないままでしたが…。これからもいろいろ参加したいと思っていますし、何かお手伝いできることがあればしたいです。あとは、周りの友達に河口堰の話をするにしますが、社会問題を話題に出すと白けることがままあるので…できるだけ深刻じゃない雰囲気を作って話す方がいいのかなあ…などと、うじうじ考えてしまいます。

長くなりましたが、有意義な会を開いてくださってありがとうございました。またよろしくお願ひします。

2014.6/4 中日新聞「発言」

棚瀬 史恵 主婦
(岐阜県各務原市) 34歳
長良川河口堰建設に全国的な反対運動があったこと、大村秀章愛知県知事と河村たかし名古屋市長が公約に掲げた開門調査が頓挫していることは知っていましたが、実際の姿を見たくて、市民団体の行つ見学ツアーに参加しました。
船で堰を通過する際に、維持費が年間約十億円という大掛かりな設備を間近にアーに参加しました。歴然。汽水域の喪失が及ぼす生態系への悪影響を実感しました。揖斐川の砂がざらざらしていたのに対し、

長良川清流に戻したい

見ました。また、周辺の川底の泥、ヨシ原、カニなどを比べましたが、隣接する揖斐川や木曾川との違いは長良川の砂はドロ状でした。さらには、建造上の名目であった工業用水としての利用はゼロとのこと。
「原発でさえ事故が起きてもなかなか方針を変えられない日本で、私たちに何ができるの」。心の中で怒りと失望がうずまいていて、あきらめの気持ちにとらわれます。しかし、私は長良川を清流に戻したい。そして、あきらめることに慣れた自分を変えたいです。

長良川上流の山・川・暮らしの視察と交流

清流長良川の上流で、人々のどんな営みと努力があるのか学び交流する取り組みでした。

6月7日（土）朝JR岐阜駅に集合しマイカーに乗り合わせ郡上市で明宝に向かいました。午前中は岐阜県郡上土木事務所の案内で吉田川に16ある魚道のうち2か所見学しました。

午後は、株式会社「郡上割り箸」の小森さんの案内で工場を見学した後、古民家「源右衛門」（郡上市明宝二間手）で「移住促進現場からみる、長良川上流地域・生き残りへのチャレンジ～郡上暮らしと町おこしの取り組み」をテーマに「ふるさと郡上会」事務局小林謙一さんの講演を受けました。

夜は明宝の民宿「しもだ」で交流。小林さんに加え地元在住で「サツキマスのいた川」の著者田口茂男さんにも参加いただき郡上のおいしい自然食を囲んで夜中まで飲み・語りました。

翌朝は、夜の雨が上がり快晴。山々の緑と川面の輝きがまぶしいばかりでした。民宿を出て「ななしんぼカフェ」でおいしいモーニングコーヒーをいただきながらNPOななしんぼの若いスタッフの初々しい活動紹介



ななしんぼカフェ

を受けました。その後、長良川を上り大和の森林現場を小森（大原林産）さんに説明を受けながら歩きました。

今回の視察では上記に加え本当に多くの皆さんのお世話になりました。感謝申し上げます。なお、岐阜へ帰る途中、関市において遊水地など歴史的治水現場の案内を「ギンブナの会」の須田さんにしていただけました。とても丁寧な準備に恐縮しました。ありがとうございました。

1. 吉田川の流れと魚道

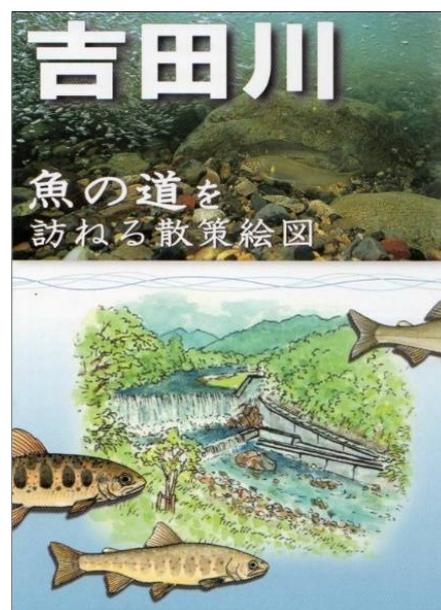
郡上八幡の町を吉田川に沿って上流に進みます。右岸（北西側）は洞から川が流れ出て里がありだんだんと山が高くなっていきます。一方 左岸（東南側）は吉田川からすぐ山地となりそれもいきなり高く稚児山（817m）上へ京塚山（854m）と続きます。二万五千分の一の地図で見るとおそらく平地から見えるてっぺんあたりから向こう側に降った雨は全部、吉田川ではなく飛騨川水系となり木曾川を経て伊勢湾に注ぎます。どうしてこんな地形になったのかいまだに不勉強ですがそんな眼で吉田川を進むとまた、面白いでしょう。

10時に明宝コミュニティーセンター駐車場で県土木郡上事務所の砂防係長、主任技師と合流し堰と魚道についての説明を受けて実際の堰と魚道の見学にスタートしました。

岐阜県が「吉田川 魚の道を訪ねる散策絵地図」という楽しい絵



「源右衛門」前で参加者の記念写真



図入りの案内書を作っています。これは秀逸です。それによると吉田川沿いには16の堰があります。上流の傾斜が急で人家が疎らな地区は砂防目的の堰が主流です。中流域で少し田畑が開けたところは砂防プラス農業用の取水堰となり、川が安定した下流地域では農業用の取水や用水堰が多くなります。

最上流の堰は下から数えて16番目の上水沢上砂防堰堤でこの下⑩番の鎌辺堰堤まではすべて砂防目的です。最初の見学は上から四つ目の⑬上坂本堰堤を見ました。下流入り口から堰上までの登り差は11メートルありスパイラル式魚道です。直線では急すぎるのでぐるぐると回りながら登ります。岐阜市内の大縄場大橋を想像してください。

二か所目の見学は⑨の開撫床固工（かいなでとこかためこう）という堰です。この登り差は2メートルで全面が階段式になっており魚の遡上には殆ど問題はありません。この地域で初めて右岸に少し耕作地があり農業用の取水をしています。

昼食後、時間が空いたので下から7番目の⑦二間手砂防堰堤を見ました。ここは旧明宝村の中心市街地の上流です。気良川合流地点までの農地を潤すために砂防目的と共に大量の農業用水を右岸で採っていました。登り差は8メートルあり、ここは階段式魚道で一回カーブして左岸を一直線に登ります。見学した堰は三か所でしたが各堰の案内は国道脇に表示されています。気をつけて走行すれば場所は確認できます。ただし特に上流部は堰の設置個所が急峻で堰まで下がれないところが殆どで案内はありません。

見学を終えて今回参加の日頃から魚たちにやさしく接しておられる魚類の向井先生に、質問者は「費用対効果」の意識もあって“魚道は役に立ちますか”とお尋ねしたら“無いよりは有るほうが良い”という答えが静かに返ってきました。

岐阜県は“清流の国”をキャッチフレーズに24年度より環境税を導入し、それまで放置されていた魚道の点検と改修を「河川魚道の機能回復事業」として始めました。

この作業はすべて下請けのコンサルタント会社が行います。岐阜県民の自然豊かな郷土への想いをうけてコンサル会社の為ではなく魚たちと県民のための費用として是非生かして貰いたいと思います。長良川の最大支流 吉田川は生活のなかで活用され、子供たちが川とともに成長し、釣り師を喜ばせ、地域が元気になってゆく美しい良い川でした。

(報告 粕谷 豊樹)



上坂本えん堤（スパイラル式魚道）



開撫床固工



魚影を撮る向井先生

2. 吉田川の鮎

吉田川の砂防ダムにはすべて魚道が設けられていました。実は、洪水対策で建設された多くの砂防ダムですが、後になって魚道が付け足されたそうです。最上流の上坂本ダムの魚道は、11mの水位差があるため、5回巻きの螺旋状に造られていました。水路は柵が段違いで並べてある構造です。同行の粕谷豊樹さんは、二段目の柵にイワナの魚影を確認したと言います。あと何百の柵を登るとダムの上流に出るのでしょうか。魚類学者の向井さんは「魚道を設置する前と後の魚類の調査は行われたか」と質問していましたが、なされてないようです。ダムで河川を分断しっぱなしより、魚道の設置は一步前進かも知れませんが、モニターカメラなどで、その効果を確認することも必要と感じました。

その下流では、橋の端に黒いホースが川に向けて設置されていました。私は初めて見たのですが、このホースから魚を川へ放流する仕掛けだと聞きました。宿には、放流区域（釣り場）の地図も置かれていました。何日、いや、何時間吉田川の鮎だったのでしょうか。飛騨牛も松坂牛も似たようなものか。

（報告 粕谷志郎）

3. 木工工場を見学

去年郡上の森を見学したとき、「割り箸を使うことは森を育てることにつながるのだからどんどん使って下さい」と言われ、びっくりした。それまで全く逆に、森を丸裸にするほど伐採されて作られる割り箸を、使い捨てにすることに罪悪感すら持って My 箸を持ち歩いていたが、日本の割り箸を使うことで森を育てることができるのなら、と少し気持ちは軽くなった。しかし出回っている物は安い外国製の物がほとんどのようだ。「日本の、郡上の割り箸を使ってこそ、日本の、郡上の森を育てられる」の意味をもっともっと宣伝していかないといけないと思う。

今年見せてもらった木工工場では箸袋に、「お天道様にありがとう」「自分の身体にありがとう」など色々な7種のありがとうが印刷されている。これを見るとそれだけで気持ちがなごみ、これならプ



株式会社「郡上割り箸」の小森美鈴さん



他に、きれいに磨かれた一個一個形や色めの違うまあるいすべすべのつみきは、握るとなんとも言えない優しい木の感じが気持ちいい。これらは材料に地元の広葉樹の桜、樺、檜、朴などが使われている。年輪がきれいな模様となって出ていて、癒しグッズとしても人気が出そうだった。

又、新しく製品化した間伐した檜を使った郡上踊りに合う（蹴ってもすり減りにくい）踊り下駄も見せてもらった。鼻緒には郡上藍が使われている。郡上踊りで使われる下駄は不思議なことに今までは郡上では全く作られていなかったとか。

間伐することで森に光をいれる環境事業によって出る間伐材は 今まであまり利用されていなかったようだが、それを使って収益が上がるようにならないか・・・ということで割り箸を作り、そこからつみきや踊り下

駄など、どんどん色々な利用品が考えられている。ただ儲かればよいではなく、森を育てる!がベースにキッチンと生きて、郡上の木に郡上で付加価値をつけて(働く人も地元の人で地域の活性化にもつなげて)それを地域や都市部にひろげて使ってもらい、森の恵みで会社を成り立たせたいという方針が、よく伝わってきた。

昔から木の物は好きだったが、今回木の香りや肌触りをより身近に感じられた木工工場見学はとても楽しくて、前向きなエネルギーをいっぱいもらって元気になって帰ることができた。

郡上割り箸 PROJECT (<http://gujowaribashi.jimdo.com/>)

(報告 岡久米子)

4. 郡上暮らしについて

郡上市から交流・移住推進事業を委託された民間団体「ふるさと郡上会」の小林謙一さんにお世話になり、明宝二間手の古民家「源右衛門」で郡上での暮らしと町おこしの取り組みについてお話を伺った。その中で、季刊誌や地域小冊子などを発行し情報を発信していることや「ふるさと郡上会」を構成する16の団体がそれぞれで行っている生活から遊びまでの様々な交流プログラムなどを紹介いただいた。



小林謙一さん

郡上は移住先として人気のある地域の1つとのことだが、雑誌などでの情報は決して多くない。私自身も岐阜市内に住みながら16年前から郡上市の口明方(くちみょうがた)で週2日のペースで田舎暮らしをしていて、いまでもそ半魚人ならぬ半郡上人を自認しているが、当時は市にも人口減少に対する危機感は無く、情報もほとんど無い状態だった。このため郡上で、別荘地以外の家屋や土地を探すのは大変だった。偶然新聞広告で見つけた古家(古民家ではない)や畑をやっとのことで手に入れることができた。あの頃に「ふるさと郡上会」があればあれほど苦勞をしなくて済んだかもしれない。情報を発信してもらえるというのは、少しでも田舎暮らしに興味があるものにとっては本当にありがたいものである。

そんな情報の無い時代に見つけた今の吉田川沿いにある我が家は本当に大好きな場所で、春から夏にかけては溪流釣りや鮎釣りがメインとなる。そして釣りの合間をぬって家や崩れた石積みの修理、草刈り、畑仕事、庭木の剪定、野菜や柿、栗などの収穫、モグラやスズメバチとの格闘などなど、どんなレジャー施設に行くより面白く飽きることはない。まだやれていないがキノコだって栽培してみたいしミ

ツバチの飼育にも挑戦してみたい。メインの釣りにしたってサツキマス釣りや吉田川以外の長良川支流にまで手が回らない状況だ。周りの人たちもやさしく、自然な形で接していただいてわからないことがあれば聞き、教えてもらいながら覚えていく楽しさもある。

「郡上は本当に面白いよ。おいでよ!」と声を大にして発信したいくらいだが、これは遊びとしての田舎暮らしを楽しんでいるからであって、いざそこで生きていくとなるとなかなか大変なもの16年間見てきてわかる。私の場合、名古屋で仕事をし、岐阜市に住んでいたので問題とならな



堀さん宅の庭から吉田川を見下ろしたスナップ

かったが、郡上に住み生活していくためにはまず経済的に安定するための雇用の場をいかに確保するかということが最大の焦点となろう。これは郡上に移住してきてもらうということだけでなく、郡上で生まれ育った若者にこの地に残ってもらうための絶対的な条件となる。夕方郡上八幡の街中を通ると郡上高校の学生さんを多く見かけるが、「このうちどれくらいが将来市内に残って生活していつくれるのだろうか?」と考えてしまう。どれくらいの割合の子が大人になっても郡上で生活したいと思っいるかわからないが、たとえ郡上で生活したいと思っても雇用の場が無ければ仕事のある都市部に行くしか選択の余地が無い。ましてや移住希望者は何も無いところから出発しなければならず、特に子育て世代となれば経済的な基盤はより重要となる。

この問題は郡上に限らずどこの地方でも一番難しい問題であろう。これが解決すれば問題の多くは解けたことになり、あとはそこに入れば何とかなっていくと思う。実際に長良川河口堰の反対運動に関わりながら郡上が好きになり仕事を見つけ結婚もし、住みついた若者を個人的にも知っている。そしてこの情報発信と雇用の問題に果敢に挑戦しているのが今回お世話になった小林さんであり、林業家で会社・郡上割り箸の代表でもある小森さんたち「ふるさと郡上会」の方々なのである。

「郡上大好き！盛り上げたい！」という思いが熱く伝わってきたのが今回の交流だった。ありがとうございました。

ふるさと郡上会 (<http://www.furusato-gujo.jp>)

(報告 堀 敏弘)

5. 源流の山を訪ねて



長良川上流部の山林はどうなっているのかを学ぶ現地見学会は「なごや環境大学」としての取組みを含め今年が3回目です。今回は時間的な制約があり、間伐作業の現場を見学することはできませんでした。見学したのは、長良川の支流、古道川上流の大和町にある郡上市の市有林でした。かつては郡有林と呼ばれた100年以上の歴史ある美しい森です。大原林産の小森胤樹（つぐき）さんに案内してもらいました。

歩きやすく整備された林道沿いの檜と杉の大木の森は長年にわたり手入れされ、適当に光も射し込み、クロモジ、シロモジなどの下草も生えています。しかし小森さんの説明ではこれでもまだ込み合っているくらいだそうです。樹齢が70年を超えた木は切って使うべきだと言います。2004年に7ヶ町村が合併して郡上市が誕生したため、旧町村で所有していた山林で財産区として管理していくもの以外のものや郡有林は市の財産になりました。そのためこの森の管理は林務課ではなく財務課がしているので間伐等の計画は今のところはなさそうだということです。

しばらく歩くと樹齢も若く、あまり手入れがされていない杉と檜の森になりました。間伐がされていな



小森胤樹さん



間伐がされていない森林

い込み合った林は木々の成長も悪く、光が入らず下草も生えていません。

特に檜林では杉と違い落ち葉が粉のように細くなり、保水力がなく強い雨に大切な表土も流されてしまうそうです。土砂崩れの原因にもなります。

治山・治水、山は緑のダムといいます。岐阜県のような‘山の国‘の山は、一見緑で覆われて豊かに見えますが、現実には、戦後、杉や檜を中心に植林された山々の多くは手入れされないままです。国産の木がほとんどが切り出す手間代もでないほどの安さのため多くは使われていません。間伐した木材も切り倒したまま 放置されているものが多いようです。山仕事に従事する人も高齢化し若い従事者は多くはありません。

小森さんはサラリーマンを辞め林業を志し郡上に移住し12年。間伐作業などに携わりながら林業のあり方を模索されています。間伐した木をなんとか有効利用できないか？町の人達にもっと木の良さを知って使ってもらえるようにできないか？ 今後50年、100年先の森作りはどうあるべきか…？ その試みの一つが2009年に立ち上げた杉の間伐材を使った「割り箸プロジェクト」です。（岡さんの報告参照）小森さん達の思いが多くの人に伝わり、大きく広がっていくことを願っています。

岐阜県では平成24年度から5年間、森林・環境税が課せられています。今年で3年目になるそうです。県内に住所のある人、家屋敷を所有する個人は年額1000円、県内に事務所、事業所のある法人は資本金に応じて均等割額の10%（80,000円～2,000円）。既存の税収と区別して「清流の国ぎふ森林・環境基金」に積み立て財源とするとのこと。

平成26年度予算額はおよそ14億6千万円。水源林、河畔林、奥山林の間伐、森林の公有林化、里山林整備、魚道回復事業、木製品導入などが項目に入っています。平成24年度には24市町村で1,632.74haの水源地林などの整備が進んだそうです。この政策が厳しい状況にある林業を本当に応援することになり、上流域の山林の再生につながり、豊かな川、海の再生にもつながっていくことを期待したいと思います。

（岐阜県のHP参照）<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo-koyo/ringyo-mokuzai-sangyo/kanren-joho/zei/>

（報告 田中万寿）

木曾三川エクスカージョンのご案内

*申し込み先 (メール) mutohitoshi@yahoo.co.jp TEL090-1284-1298 (武藤) FAX058-242-3054

● (パートI) 木曾三川下流の環境と利水

9月5日(金)・募集定員20名(マイクロバスと船)・参加費 1000円(食事含まず)

・案内者 富樫幸一(岐阜大学教授)、武藤仁(長良川市民学習会)

AM9:00 JR金山駅北口(ダイエー前): 出発→愛知用水水路見学→名港導水路水管橋見学→水の生活館(佐布里池)見学→中部国際空港(昼食)→桑名市住吉船付き場(乗船)→長良川河口堰→船頭平閘門公園船付き場(下船)→木曾川文庫見学→PM5:00ごろJR名古屋駅西口 解散

● (パートII) 徳山ダム導水路計画の検証

9月6日(土)・募集定員25名(中型バス)・参加費 1000円(食事含まず)

・案内者 近藤ゆり子(徳山ダムの建設中止を求める会事務局長)

AM9:00 JR岐阜駅前観光バスターミナル集合 AM9:15 出発→水と森の学習館→徳山ダム堤体内見学、堤体上からダム・工事の徳山水力発電所を見る→徳山会館 昼食・休憩→揖斐峡(取水口予定地)→山口頭首工(根尾川)→長良古津(長良川放水口予定地)→PM4:20 JR岐阜駅到着



岐阜県立 岐山高等学校校歌

作詞／土岐善麿
作曲／渡辺清人

一

雲晴れて 金華山 みどりあかるく
波清し 長良川 かがやくところ
真理をもとめ 希望新たに
正しく進めば よろこびあふれて
科学の力を 信ずるものに
高く ひろく 開ける大地よ

二

百々が峰 松風の たえずかよひて
健やかに 友情の 深まりゆくや
文化の花の 濃尾平野に
さきつぐ歴史を おのおのになひて
社会の人たる 誇りに立てば
つねに 強く 満ちくるいのちよ
見よ この意気に こぞるとき
われらあり 岐山高等学校

事務局に下のようなお手紙をいただきました。
我が母校(岐山)校歌の歌詞に長良川があった？
まったく校歌が思い出せませんでした。高校時代
といえばハンドボール部員として毎日毎日「フ
イト！フイト！・・・」と声を出してグラ
ドを走り、汗と泥、きつい練習に耐えていた印象
ばかりです。

私の学年は私はじめ小粒のメンバーが大半、ゴ
ールキーパーは太っちょでのんびり屋。先輩から
の期待はゼロ。だけどチームワークだけはどの学
年にも負けませんでした。一年生のときから受け
た新卒赴任のI先生の情熱あふれる指導がとて
も良く、ついにインターハイ出場。私には、宝とな
る思い出です。

この稿を書くにあたり、岐山高校のホームページ
を開き、校歌を聴きました。覚えてる！！
思わず歌詞が口から出てきました。(武藤仁)

読者からの手紙

いつもnewsありがとうございます。No.17の裏表紙を見たら県岐商の校歌。

「・・・水清冽の長良川」思わず口ずさんでしまいました。新卒で赴任した学校です。これまで何度歌ったことでしょう。

次が岐阜高校。歌詞を読み返して見るとここでもいきなり1番で「・・・百里の水 長良川」です。

では、三番目の勤務校大垣南高校では？「伊吹の峯は・・・」で始まりますが川は出てこない。それでも2番に「大地に湧きて尽くるなき水の恵みのかしこさよ・・・」です。

ふたたび岐阜地区に戻って岐工。ここは愛知県との県境ですから「大木曾の水よどみなく・・・」です。

終着の岐山高は「・・・金華山みどり あかるく波清し 長良川 かがやくところ」と1番です。

シリーズ「校歌に歌われた長良川」⑱は、さすが「岐阜は木のくに、山のくに・・・」、山と共に、長良川の大切と水の恵みを再認識するよすがとなりました。(岐阜市のSさん)

河口堰の開門をやりぬいてください。私は77歳になります。郡上での友釣りもこのシーズンでできなくなると思いますが、開門すれば水流が良くなりよいアユが育ってくれます。(各務原市のWさん)

こちら東京多摩川でも、下水の高度処理等で多少きれいになってきました。河口のシジミも解禁だそうです。しかしながら清流とは言えず、泳ぐ気にはなれません。まだまだです。(東京のYさん)

原発再稼働を許してはならないと思う日々ですが、声が小さくなっているのが残念です。

(名古屋市のNさん)

発行：長良川市民学習会

<http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎

連絡先：武藤 仁／090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東 7-11-1

● 私たちの活動は皆様のカンパで成り立っています。賛同してくださる方は、ぜひカンパをお願いします。

ゆうちょ銀行口座：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会